



第9号

—労災病院の理念—

勤労者医療と地域医療の中核病院として、患者様中心の安全で安心な質の高い医療を提供します

労災病院 ➤ 診療科の紹介

《腎臓代謝内科のご紹介》

安藤 明利 副院長（内科部長兼務）

- 昭和47年福島県立医科大学卒 医学博士
- 指導医：日本内科学会、日本腎臓学会、
日本透析医学会
- 認定医：日本内科学会、日本医師会認定産業医
- 専門医：日本腎臓学会、日本透析医学会
- 専門分野：腎、電解質、透析、内分泌



副院長 安藤明利

濱野 慶朋 腎臓代謝内科部長

- 平成元年筑波大学医学専門学群卒 医学博士
- 指導医：日本内科学会
- 認定医：日本内科学会
- 専門医：日本透析医学会、日本内科学会
- 専門分野：腎、電解質、透析、内分泌



部長 濱野慶朋

東京労災病院腎臓代謝内科は、腎疾患及び腎移植において我が国で最も多数の患者さんに携わってきた東京女子医科大学腎臓病総合医療センターの出身者及び同センターからの派遣医師により20年以上にわたり営まれてきました。

安藤明利副院長も出身大学での3年間の腎疾患診療後、昭和50年から東京女子医科大学において多数の腎炎、慢性腎不全を中心とした腎疾患の診療を経験し、当院に移籍後も糸球体腎炎を中心とした腎疾患はもとより、現在透析導入患者の半数以上を占める糖尿病性腎症についても腎臓代謝内科として格別の危機感を持ち対策に取り組んでおります。

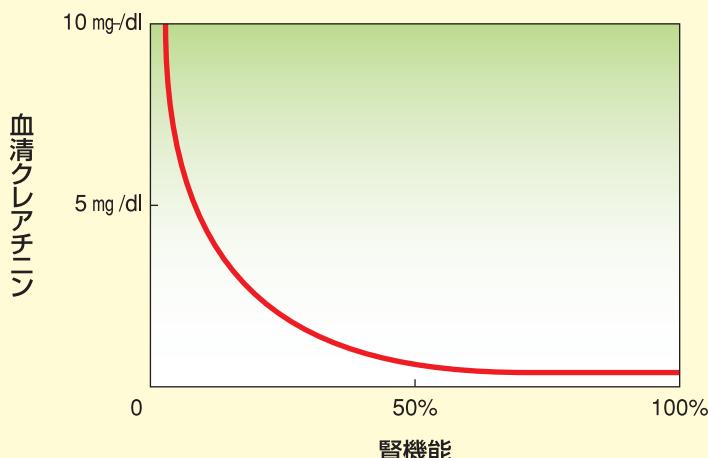
腎症を伴う糖尿病患者の腎機能悪化阻止、ひいては透析導入までの期間を可能な限り

延長し、健全な人生設計の中で送っていたのが目的です。また、経験豊富な管理栄養士による厳密な食事指導、特に蓄尿によるデータに基づいた具体的で現実的な食事のカウンセリングが最重要と考え、実行しております。

安藤副院長と共に実質的に腎臓代謝内科の運営改善を積極的に推進しているのが現在の濱野慶朋腎臓代謝内科部長です。濱野部長は、東京女子医科大学において腎疾患の研修を積んだ後、特に腎炎診療に不可欠な腎炎病理の研究を深めるため、順天堂大学病理学教室において臨床に結びつく研究の実績を挙げた後、腎疾患、透析療法を中心とした臨床で研鑽を積み、平成18年3月から当院の腎臓、代謝疾患の診療に実力を発揮しております。

腎臓ドックの内容

□対象となる方

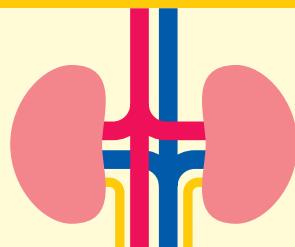


現在、腎機能の指標として用いられている血清クリアチニン値 (Cr) は身体の筋肉量に依存し、腎機能（糸球体濾過値）が 50% 程度に低下してこないと上昇しません。すなわち体格が小柄で筋肉量の少ない方では、血清 Cr 値が基準値を超えた場合、実際の機能は健常者の 3 分の 1 程度に低下していることもあります（左図）。

* 血清 Cr 値が基準内でも尿所見のある方は、是非当方にご紹介ください。

□腎ドックのコース

腎疾患の治療には、適切な食事療法、薬物療法、生活指導などを行う必要がありますが、腎障害をもたらす原疾患の多様性（腎障害進展に関わる主な因子として高血圧、食事蛋白負荷、多量の蛋白尿、高カルシウム血症、高リン血症などが挙げられます）、個人差又はそれらの治療法に要する長期間の経過観察などの理由から、どの進展因子にも同等にエビデンスが確立されているわけではなく、濃淡があるのが実情です。



当腎ドックでは、下表のコースの入院期間中に、患者さんの全身状態の把握を基本に腎障害を多面的に評価し、具体的な治療方針を決定した上で先生方にご助言させていただきます。

【4日コース】

日程	1日目（金）	2日目（土）	3日目（日）	4日目（月）
検査内容等	入院 ガイダンス 血液検査 X線検査 心電図	蓄尿開始 ABPM開始	蓄尿終了 ABPM終了	腹部超音波検査 検査結果説明 食事指導 退院

【5日コース】

日程	1日目（月）	2日目（火）	3日目（水）	4日目（木）	5日目（金）
検査内容等	入院 ガイダンス 血液検査 X線検査 心電図	前日の検査結果説明 蓄尿開始	前日の検査結果説明 蓄尿終了	蓄尿結果の説明 ABPM開始	血液検査 全体結果の説明 食事指導（2） 退院
				ABPM終了	
		食事指導（1）			治療食

(注) ABPM : 携帯型血圧測定

□腎ドックの費用

【4日コース】 3万6千円 (保険使用で3割負担の場合)
【5日コース】 4万3千円 (保険使用で3割負担の場合)

※症状により
費用が若干異なることがあります。

連携医療機関の院内掲示について

当院が医療連携に取り組み始めてちょうど10年になります。当初は連携に関する職員の意識が低く、せっかくご紹介頂いてもお断りしたり、ご返事をさしあげなかったりといったことが少なくありませんでした。そこで、医療連携委員会を中心となって連携の重要性を院内職員に浸透させるべく努力を続けてまいりました。その結果、今では職員一丸となって医療連携に積極的に関わるようになりました。こういった取り組みが地域の先生方にも徐々にご理解頂けるようになり、緊密な連携が築かれつつあります。例えば、30%にも満たなかった紹介率ですが、年々上昇しお蔭様で昨年度は43.1%に達しました。今後は、医療連携をさらに推進するために、ご紹介頂くだけでなく当院から地域の先生方に積極的にご紹介申し上げる、後期医療連携に重点を移し、地域完結型の医療を実践したいと考えております。そのより良き連携のために、先生方からのご批判、ご指導をお願いいたします。

さて、本年5月より、事前にご登録頂いた138の施設につきましては、施設名・医師名を、当院の連携医療機関として正面玄関に掲示させて頂いております。これによって患者さんに安心感を持って頂くことができ、転院を円滑に進める一助になるものと期待しています。

また、この機会にご登録をご希望の先生は**連携センター（電話：03-3742-7314、担当：加藤・前川）**までご連絡下さい。



医療連携センター（電話：03-3742-7314／担当：加藤・前川）